

まぶたのできもの —ものもらい—

一般的に、まぶたのできもののことを『ものもらい』とよびます。

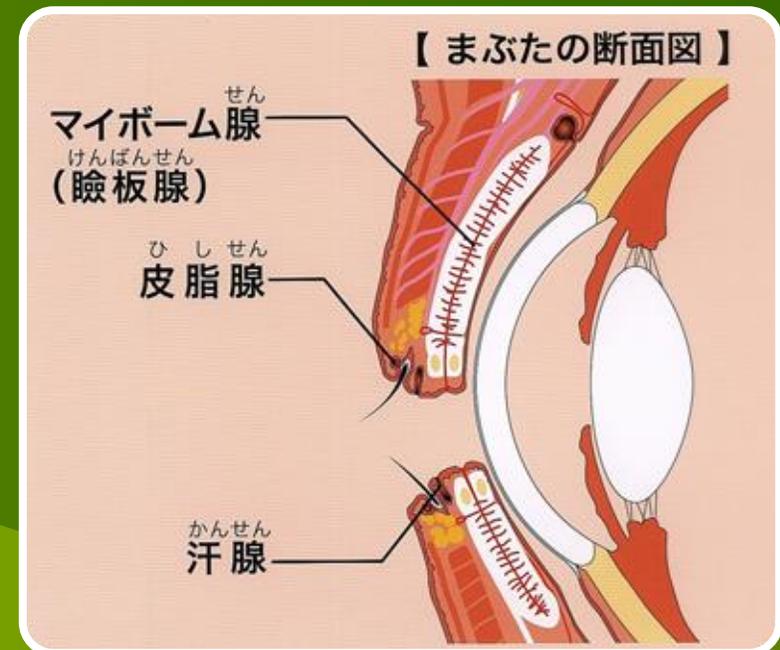
これは、「麦粒腫（ばくりゅうしゅ）」と「霰粒腫（さんりゅうしゅ）」という2種類の病気を合わせた総称で、原因や症状が異なります。



麦粒腫（ばくりゅうしゅ）

麦粒腫（ばくりゅうしゅ）は、まぶたの皮脂腺や汗腺に細菌が感染して起こります。

まぶたが赤く腫れ、まばたきをした時などに痛みがあります。



麦粒腫（ばくりゅうしゅ）

これが麦粒腫です



写真提供：日本眼科学会認定専門医 吉川洋 先生

麦粒腫（ばくりゅうしゅ）の治療

細菌感染で起こるため、治療には
抗菌薬の点眼薬や眼軟膏、内服薬を症状に応じて
使用します。

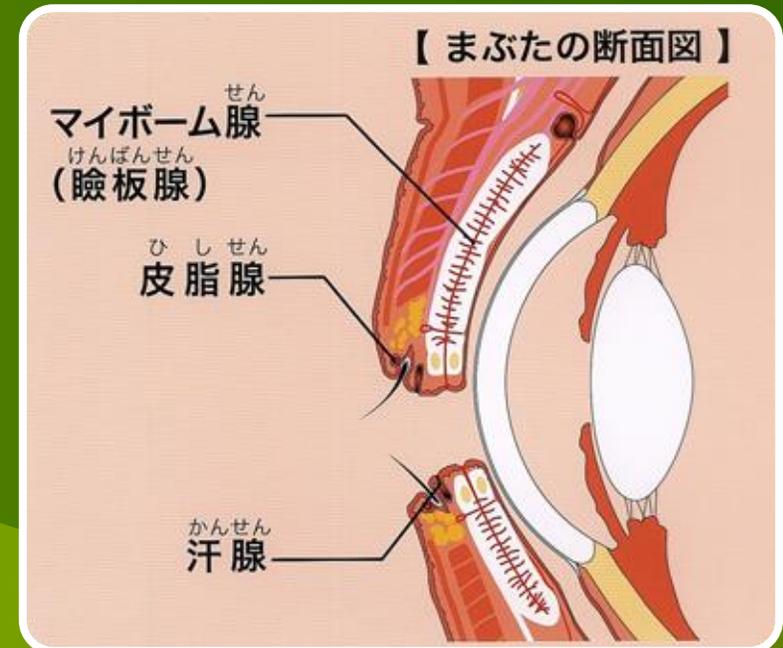
膿点（化膿したところ）が形成
された場合は、外科的治療で
うみを出す必要のあることもあります、
これは稀です。



霰粒腫（さんりゅうしゅ）

「霰粒腫（さんりゅうしゅ）」は、マイボーム腺がつまって、まぶたにしこりができる病気です。

しこりだけなら痛みはありませんが、そこに細菌が感染して悪化すると痛みを伴います。



霰粒腫（さんりゅうしゅ）

これが霰粒腫です



写真提供：日本眼科学会認定専門医 吉川洋 先生

霰粒腫（さんりゅうしゅ）の治療

細菌感染防止目的で抗生物質や抗炎症剤の点眼を行って様子を見ながら、自然治癒を待ちます。

しこりが大きい場合や炎症を起こして激しい痛みを伴う場合は外科的に切開して内容物を出します。



今月のコラム 帯状疱疹

人が初めて水痘・帯状疱疹ウイルスに感染すると、水ぼうそうとして発症します。多くの人は、幼少時に水ぼうそうに罹り1週間ほどで治ります。

しかし、この水痘・帯状疱疹ウイルスは水ぼうそうが治った後も体の神経節というところに隠れています。



今月のコラム 帯状疱疹

多くの成人が水痘・帯状疱疹ウイルスを持っていますが、健康で免疫力が高い間は活動が抑えられています。

しかし、ストレスや加齢、生活習慣病などで免疫力が低下するとウイルスが急に再活動をしはじめ、神経節の神経に沿って皮膚と神経を攻撃します。

このようにして**帯状疱疹**が発症します。



今月のコラム 帯状疱疹

初めは体の左右どちらか一方にチクチク・ピリピリとする痛みが起こり、しばらくするとその部分が赤くなり小さくて透明な水ぶくれが帯状に広がっていきます。

帯状疱疹の治療をせずに放置すると夜も眠れないほどの強い痛みを伴う場合があります。ウイルスが皮膚と神経の両方を攻撃し両方で炎症が起こるためです。



今月のコラム 帯状疱疹

初期段階では、虫刺されやかぶれなどと思い違いしてしまい発見が遅れるケースも多くみられます。

帯状疱疹はできるだけ早期に治療を開始すれば痛みを最小限に抑えることができます。

体の片側に痛みが出て赤い発疹ができ始めたたらすぐに医療機関を受診し、医師の指示に従い治療しましょう。

—今月のレシピ—

—マロニーヌードル—

材料

マロニー・・・・・・・・50g

桜えび・・・・・・・・10g

にんにくのみじん切り・・・・・・・・1/2かけ分

しょうがのみじん切り・・・・・・・・1/2かけ分

鶏ガラスープの素（顆粒）・・小さじ1/2

万能ねぎ（小口切り）・・・・・・・・2本分

サラダ油、塩、しょうゆ・・・・・・・・適量



 つくり方

1. 鍋にサラダ油大さじ1 / 2を入れて弱火で熱し、にんにくとしょうがを加えて炒める。
香りが立ってきたら桜えびを加えさらに炒める。
2. 水2・1 / 2カップ、鶏ガラスープの素を加えて中火でひと煮立ちさせ、マロニーを加える。
(マロニーはスープでもどすので下ゆで不要です)
3. 5分ほど煮てマロニーに火が通ったら、塩小さじ1 / 4、しょうゆを少々加える。器に具とスープを盛り、万能ねぎを散らす。

マロニーの主原料はジャガイモで、お米や麺類などの主食の代用品ともなる食材です。水分をよく吸うのでお米や麺類よりカロリーを低く抑えることができます。常備野菜や乾物を使って手軽に作れる「マロニーヌードル」は、簡単に済ませたい時の食事や夜食におすすめです。

闘牛と赤色の関係

闘牛士（マタドール）がムレタと呼ばれる赤い布をひらひらと動かし、興奮した雄牛が突進するシーンを見たことがある人は多いのではないのでしょうか？

あれは雄牛が、赤色に興奮して突っ込んでいっているわけではないのです。



闘牛と赤色の関係



そもそも、牛は色そのものを識別できません。
白黒の世界を生活しているのです。

雄牛は、ひらりと動くムシタに反応しているだけです。

赤色は目立ちますし、激しい戦いを連想させる色です。
ムシタが赤い理由は、雄牛ではなく観客を興奮させる
ためであると言っていていいでしょう。